

# 平成28年度第6回弘前市まちづくり1%システム審査委員会 会議録概要（1日目）

日 時：平成29年3月17日（金）

午後1時～午後5時30分

場 所：市民参画センター3階グループ活動室

出席者：審査委員 清藤委員、土井委員、鴻野委員、齋藤委員、兼平委員、西川委員、  
花松委員、川村委員、齋藤（紀）委員、前田委員（事業番号36から）、  
木田委員  
市民協働政策課 清藤課長、堀川補佐、對馬係長、齋藤主査、阿保主事、神主事、  
山田主事

## 1 公開プレゼンテーション・審査会

### <プレゼンテーション・審査方法>

- ・1事業ごとに公開プレゼンテーション・審査を実施。（審査は採点方式によって決定。）  
ただし、申請金額が20万以下の事業については、公開プレゼンテーションによる事業説明を申請団体の任意とする。事業説明を希望しない場合は、市の担当者による事業説明を実施する。
- ・審査委員が申請団体に所属する場合は、プレゼンテーションから審査まですべて外れる。

#### (公開プレゼンテーション有)

1. プレゼンテーション …15分程度  
(7分以内で事業内容の説明。残り時間で質疑応答)
2. 審査 …20分程度  
(事業内容・金額について審議後、採点表に記入)
3. 採点結果発表 …採点表集計後、休憩ごとにまとめて発表

#### (公開プレゼンテーション無)

申請団体のプレゼンテーションによる事業説明を省略し、1事業につき15分程度とする。（7分以内で市担当者による事業説明。残り時間で質疑応答）

### 【審査項目】

審 査 項 目	
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している

	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性（継続事業については発展性）が期待できる
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる

### 【審査採点】

区 分	評 価
高く評価できる	10点
「高く評価できる」と「普通」の間の評価	8点
普通	6点
「普通」と「あまり評価できない」の間の評価	4点
あまり評価できない	2点
評価できない	0点

### 【決定方法】

採択…出席委員の合計の平均点が60点以上、かつ、各審査項目の平均点が3点以上

### 《審査内容》

#### ●20：第6回こぎんフェス／こぎんフェス実行委員会

##### 【質疑応答（抜粋）】

Q：今回の事業で作製するこぎんマップがどのようなものか教えていただきたい。

A：サイズは3年前に作製したものと同じA3三つ折りを想定している。また、以前作製したものは情報が古いので、新しい情報を掲載し、弘前市周辺のこぎんに関するスポット、こぎんアイテムの取扱店などを紹介していきたいと考えている。

Q：今後、事業を継続することによる波及効果で、認知度が上がった後の具体的なビジョンを教えていただきたい。

A：生活の中にこぎんのアイテムが浸透している状態を目指すこと、こぎんの新しい模様や模様の基になるモドコが自由に流通し、普及できるような仕組みをつくること、伝統的なこぎんとは違うものが見受けられることから、正しいこぎんについての啓発活動をしていくことの3つを目指している。

##### 【主な意見】

- ・最近では地域特有の物が意匠登録などできるようになってきているので、登録を目指して、全国に対する津軽の文化の発信力を強めていただきたい。
- ・こぎん刺しや津軽塗など、手のかかるものは独特の良さを醸し出すので、本物の良さや

強さを知ってもらえるように頑張っていたきたい。

- ・こぎん刺しだけでなく、ほかの津軽の伝統工芸とタイアップして、ライフスタイルごとに提案するのも面白いのではないかと感じた。

#### 【採択結果】

合計点 74.4点 ≥60.0点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 10名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.4
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.4
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.4
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	6.6
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.6
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.0
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	8.0
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.2
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.4
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.4
合計		74.4

#### ● 33：イラストでひろさきの街並み再発見！／津軽ひろさきマーチング委員会

##### 【質疑応答（抜粋）】

Q：ホームページ製作費の予算が計上されていないが、周知方法としてWeb等を使わず、チラシ・ポスター等、紙媒体での周知をメインとするのか。

A：紙媒体だけでなく、ホームページやFacebookでの周知も行っていく。予算は計上していないが、団体のホームページを活用する予定である。

Q：セミナーの講師は決定したのか。

A：現在、3名の先生を候補として調整中であるが、どの方でも引き受けていただける見込みである。

Q：次年度以降は申請しないとなっているが、事業を継続する予定はあるか。

A：次年度には、企業協賛やサポーター制度を確立して、自主運営できるようにしたいと考えている。

##### 【主な意見】

- ・イラストは建物の細かいところまで描いてあり、写真や、ただ漠然と見るものとはまた

違う良さが感じられる。

- ・現在イラストになっている建物以外にも、弘前市には洋館や文化財などがたくさんあるので、今後も継続していくことで、イラストへの可能性を広げていただきたい。
- ・将来的に、観光の資料として、弘前のイラスト集なども発行していただければ面白いと思う。

#### 【採択結果】

合計点 76.6 点  $\geq$  60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 10 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.8
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.8
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.0
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.0
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.8
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	7.6
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	7.8
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.6
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	8.2
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	8.0
合計		76.6

#### ● 36 : 「あのね、知ってる?ここにもフランス」プロジェクト/弘前グローバル・アクション 【質疑応答(抜粋)】

Q : チラシを公共施設等に掲示する以外に、事業の周知のために直接市民とふれあうようなかたちで行ったことがあれば教えていただきたい。

A : 大学のオープンキャンパスのときに、高校生に活動を説明したところ、実際にマルシェに参加してくれた人もいた。また、ヒロロで開催されたパンフェスタやママフェスタなどでワークショップのブースを設けたり、チラシ配布をしてマルシェのPRをしたところ、参加してくれた人たちがいた。

Q : 学生が入れ替わる中で、活動を継続していく秘訣や工夫があれば教えていただきたい。

A : 先輩と後輩と一緒に活動することを大事にしている。出店者との交渉や話し合いなどに後輩も同行するほか、リーフレットの取材などは後輩に任せながら必要に応じてサポートする態勢をとっている。

**【主な意見】**

- ・日仏の交流では日仏協会が活発に動いていたので、今回の事業でも協力していければよいのではないかと思う。
- ・学生同士の先輩後輩のつながりや、協力してくれる企業とのつながりなど、書類に上げられている以上の成果がうかがえる。

**【採択結果】**

合計点 73.1 点  $\geq$  60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 11 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.1
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.1
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	6.9
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	6.7
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.8
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.0
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	7.6
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.1
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.6
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.1
合計		73.1

● 25 : ラベンダーロード再生事業／相馬地区小・中学校 PTA 連絡協議会

**【質疑応答 (抜粋)】**

Q : できる限りメンテナンスを少なくして、きれいな景観を維持できることが望ましいと思うが、今後の維持管理の面では、どのようなことを行っていこうと考えているか。

A : まずは、今回でロードをラベンダーでいっぱいに行こうと考えている。今後の維持管理については、相馬総合支所など行政と相談しながら継続していきたい。

**【主な意見】**

- ・今後の維持管理が気付きであるが、事業を継続展開させることによって、新しいことにつながっていくことに期待したい。

**【採択結果】**

合計点 75.1 点  $\geq$  60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 11 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.6
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	8.2
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.3
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.1
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.8
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.0
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	6.9
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	6.7
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.6
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.8
合計		75.1

●29：ワクワク・ドキドキ?!ひろレクパーク「気軽に体験!楽しい時間・楽しく健康。笑顔の自分を探しに行こう!・楽しく弘前探検「みんなのウォークラリー大会」・レッツひろレクデー「認知症予防のレクリエーション体験」/特定非営利活動法人 ひろさきレクリエーション協会

**【質疑応答 (抜粋)】**

Q：自分の問題と捉えられない一般の人に、認知症について啓発することは難しいと思うが、そういった部分で工夫している点があれば教えていただきたい。

A：会員の中には福祉施設等に勤務している人もおり、予防の段階で相談に来ている人にも、このようなイベントがあることをお知らせしている。

Q：レッツひろレクデーの1日のスケジュールをお知らせいただきたい。

A：午前中は認知症サポーターを講師として、認知症についての理解を深める時間を設ける。午後は認知症を予防するための遊びやスポーツを体験していただきたいと考えている。

**【主な意見】**

- ・認知症の予防はいろいろな方面からくるものだが、軽い運動が予防につながるという科学的証明もされているということで、参加者の選択肢が増えることは良いことだと思う。
- ・レクリエーションはスポーツと違って気軽に参加できるので、認知症予防に捉われず、楽しむ意味合いで参加する人がいてもいいと思う。
- ・現在、認知症の疑いがあるとわかった人に対してのケアの場が少ないように感じられるので、レクリエーション協会の役割は大きいと思う。

**【採択結果】**

合計点 72.2 点  $\geq$  60.0 点 ⇒採択 (申請額どおり)

※審査委員 11 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.3
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.3
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.6
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.5
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	6.9
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	7.3
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	6.5
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.1
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	6.9
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.8
合計		72.2

●30：親子の触れ合い「親子じゃれつき遊び」と子どもの生活習慣・体力・社会性をはぐくむ  
「コーディネーションを取り入れた運動遊び」／子育て支援サークル ママーズクラブ  
【質疑応答（抜粋）】

Q：室内での遊びや運動が中心になっているようだが、プレーパークなど外遊びが全国的に広がりつつある中で、外遊びを取り入れるお考えなどはあるか。

A：外遊びでは、いろんな予測できないことがあって、子どもの冒険心を養えるということもあり、プレーパークの構想を考えたこともあったが、保護者が嫌がったという過去がある。また、日中、見守る側の保護者を確保することが難しいという理由からも、室内での活動にとどまっている。

Q：周知は具体的にどのように行っているのか。

A：市内各幼稚園や保育園、施設等へチラシを設置していただいている。また、参加者には次月のご案内を渡すようにしており、過去の参加者からの口コミで参加する人も多い。

【主な意見】

- ・いつも集まる固定したグループに、1割の新規参加者が加わって、講師を呼んでいるようで、開かれていないように感じる。
- ・会員＝サービスを受ける側ではなく、趣旨に賛同して参加した人は、一緒に事業を作る作り手であるという考え方をされているということで、閉鎖的な意味の会員ではないと思う。

【採択結果】

合計点 66.7 点  $\geq$  60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 12 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	6.5
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	6.7
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	6.8
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	6.3
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	6.5
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	6.7
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	7.2
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	6.5
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	6.7
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	6.8
合計		66.7

● 18 : 次代を担う子供たちへ 音楽の魅力発信事業～Let's Enjoy Playing MUSIC～vol.1  
 /NPO 法人 ジャズネットワーク

【質疑応答 (抜粋)】

Q : 今回の事業は、子どもたちがジャズを演奏できるようにしたいのか、または、子どもたちに楽器の取り扱い方を学んでもらいたいのか、主目的を教えてください。

A : 今回の事業は、ジャズに限らず「音楽」という視点で楽器の基本を大事にしている。プロ演奏者から、楽器の持ち方など基礎からの指導を受けることで、日頃の演奏の基本を見直すきっかけにしていただければと思っている。

Q : どのくらいの参加者を、どのような方法で募集しようと考えているのか。

A : 参加者は演奏指導、演奏会それぞれ100名程度を見込んでいる。参加者の募集は紙媒体でも行うが、吹奏楽連盟や一般のバンドなどへの声掛けなど、楽器仲間のネットワークを利用したいと考えている。

Q : 参加者は個人所有の楽器を持参していただくのか。また、一般は対象外となっているが、具体的な対象者を教えてください。

A : 講習会でプロの指導を受けるのは、楽器を所有している子どもを対象とするが、楽器を所有していなくても、見学のみであればどなたでも参加していただくことが出来る。今回の事業では子どもへの指導をメインとしているため、一般の人がプロの指導を受けることはできないが、演奏会のチケットを購入した人は講習会の見学も可能とする。

【主な意見】

- ・「音を楽しむ」機会を広く市民に提供したいという目的には賛同しますが、プロによる演奏指導の時間が短いなど、実施することによる効果が弱いと感じられることから、貴

団体の活動も含め、定期的なプログラムにするなど、より効果的な方法を検討していただきたい。

**【採択結果】**

合計点 52.0点 <60.0点 ⇒不採択

※審査委員 12名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	5.5
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	5.3
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	5.6
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	5.1
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	5.8
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	5.3
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	5.3
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	4.7
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	4.9
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	4.5
合計		52.0

3月17日審査結果 (37事業のうち7事業)

採択とする事業 6事業

不採択とする事業 1事業

# 平成28年度第6回弘前市まちづくり1%システム審査委員会 会議録概要（2日目）

日 時：平成29年3月18日（土）

午前9時～午後4時30分

場 所：市民参画センター3階グループ活動室

出席者：審査委員 土井委員、安田委員、鴻野委員、兼平委員、西川委員、花松委員、  
佐藤委員、川村委員、齋藤（紀）委員、木田委員  
市民協働政策課 清藤課長、堀川補佐、對馬係長、齋藤主査、阿保主事、神主事  
山田主事

## 1 公開プレゼンテーション・審査会

6月17日に引き続き審査

《審査内容》

- 1：市民健康増進事業「第6回 津軽岩木スカイラインを歩いてみよう会」／弘前歩こう会  
【質疑応答（抜粋）】

Q：コースは5kmと10kmの2つあるようだが、どのように設定しているのか。

A：10kmコースは、スカイラインのゲートから8合目の駐車場まで歩く。5kmコースは残り5kmのところまでバスで行き、そこから8合目の駐車場まで歩くことを考えている。

Q：周知について、紙面などの紙媒体が多いように感じたが、旅行商品として組み込んでいただくなど、別な形でのアピールは考えられるか。

A：商品化に関しては、読売旅行とJR東日本秋田支社と協議する予定がある。スタッフや経験者の確保など、エージェントだけでは難しい部分について、我々も協力していきたいと考えている。

【主な意見】

- ・ 6回目の事業で、新規参加者が7割という点が素晴らしい。
- ・ 読売旅行やノルディックウォーク連盟との連携が実現すると、海外からの旅行者にも参加してもらえるようになるなど、将来性には期待できる。
- ・ イベントの完成度が高く、かつ新しい取り組みがなされていて、PRも含めた良い事業だと思う。

【採択結果】

合計点 73.1点 ≥ 60.0点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員9名で審査採点（佐藤委員が構成員のため審査から外れる）

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.3
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	6.9
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	6.7
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	6.7
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.8
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.2
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	7.8
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.8
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.3
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	6.7
合 計		73.1

● 2：青少年健全育成・地域づくり・地域世代間交流事業

「第4回 津軽の伝統文化と昔の遊びに触れてみよう」／時敏地区青少年育成委員会

【質疑応答 (抜粋)】

Q：対象を時敏小学校児童から一中学区全体に広げたいということだが、最大でどのくらいの人まで対応できるものか。

A：一中学区の小学生が全員参加したとしても1,000名程度であり、事業を遂行する上では問題ないと考えている。しかし、子ども達が戸惑いを感じずに素直に体験できることが大事だと考えているので、今回は北小学校まで対象を広げて、可能性があれば少しずつ中学校区に広げていく形をとりたい。

Q：事業実施日に時敏地区だけでなく、より多く参加していただくなど、範囲を広げることは考えているか。

A：昨年までの3年間では、各地区の育成委員、子ども会担当者、児童館の先生などが見学に来た。また、堀越地区、新和、裾野、鬼沢などでは、遊ばせ方や道具の使い方など地区の大人が勉強する様子もうかがえ、地区ごとに発展してきていると感じる。

Q：昨年は高学年の参加者が少なかったようだが、今後継続する上で安定した参加を見込むために、何か考えていることはあるか。

A：昨年は、市の行事や部活動の大会が重なって、高学年の参加が少なかったこともあり、今年度は学校側との調整の上、開催日をずらした。また、高学年になると複数回続けて参加している児童もいるので、飽きないように内容を工夫していきたいと考えている。

Q：今回から、新しく企画している事業については土日の開催になるようだが、学校側の意向はどうか。

A：学校では総合的な学習の時間ということで、地域を深く掘り下げ、調べていくという授業を行っており、校長が事業の開催を要望したという経緯もある。事業遂行に当たっては保護者の同意や地域の人、PTAの協力が必要になってくることも考えられるが、類似の事業は過去にも行ったことがあり、ベースは確立されている。

【主な意見】

- ・学校を通じて、育成委員会や講師、地域の人、PTAが一つのものに対して集まって、協力しながらつながっており、地域づくりや世代間交流の役割が大きいと感じた。
- ・自分たちの住んでいる地域の歴史的な価値や、文化遺産などを知っている子どもが減少している中で、子どもに対する学習の機会を与えることについては応援したいと思う。
- ・講師の演奏を聴くだけでなく、実際に子どもたちに体験させるという点が良いと思う。そこから、興味を持った子が習ったり、部活に入るような流れが出来れば理想である。

【採択結果】

合計点 75.4 点  $\geq$  60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 10 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.0
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	8.0
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.2
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.2
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	8.0
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.0
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	7.6
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.6
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.4
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.4
合計		75.4

●5：文化振興事業「第1回 大森勝山遺跡と世界遺産登録を学ぼう会」／弘前縄文の会  
【質疑応答（抜粋）】

Q：大森勝山遺跡の世界遺産登録に向けての取り組みとしては、具体的にどのように人を巻き込んでいくのか。

A：現在、128人の会員を対象にした土器作り指導、ガイド育成の講座を実施している。まずは、会員に専門的な知識を学んでもらい、そこから一般市民に広げていきたいと考えている。

【主な意見】

- ・小栗山の弥生遺跡発掘中に縄文遺跡が出てきたという話がある。縄文の遺跡も発掘されることになればますます盛り上がるなど、今後の可能性を秘めている。
- ・地道な活動になると思うが、周知活動が大事になってくると思うので、長い目で応援していきたい。

【採択結果】

合計点 71.4 点  $\geq$  60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 10 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.6
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.6
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.0
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	6.2
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.4
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	7.2
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	7.4
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.6
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	6.6
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	6.8
合計		71.4

● 12：常盤野町会コミュニティー醸成推進事業／常盤野町会

【質疑応答（抜粋）】

Q：この事業は、今年度限りの事業なのか。

A：転倒防止金具の設置については今年度限りである。その他の夕涼み会や交流会などはこれまでも実施してきたが、内容のレベルを上げるために費用が必要になり、今回の申請に至った。

【主な意見】

- ・町会役員で、要介護者宅へ転倒防止金具を設置することで、該当者の自宅及び周辺環境の確認もでき、それが財産にもなっていくと思う。
- ・補助金の要求は1回限りのようだが、1回の事業を行うことによって、人命の救助や地域の活性化にかなり貢献すると思う。

【採択結果】

合計点 70.2 点  $\geq$  60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 10 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	6.4
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.6
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.4
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.0
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.0
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	7.4
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	6.4
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.0
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.0
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.0
合計		70.2

● 37 : 第2回全日本横笛コンクール/津軽笛地域づくり実行委員会

【質疑応答 (抜粋)】

Q : 昨年度の上位入賞者はみんなプロ奏者だったということだが、プロ以外のいろんな人が入賞できるようなシステムは考えられるか。

A : 津軽三味線の全国大会がいい例だが、横笛業界が盛り上がり、弘前でコンクールを開催しているという認知度が上がり、参加者が増えればランク分けも視野に入れていきたいと考えている。

【主な意見】

- ・前回の出場者がほとんどプロだということで、閉鎖的なコンクールになってしまうことは望ましくないので、ランク別の設定など、子ども達も積極的に出場できるような工夫などがなされれば、より浸透していくのではないかと感じた。
- ・トップ奏者を呼んでくると多くの費用が掛かることは理解したが、補助金を活用する以上、賞金額が大きいことについては違和感を覚えた。

【採択結果】

合計点 66.4 点  $\geq$  60.0 点 ⇒採択 (申請額どおり)

※審査委員 10 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	6.8
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.2
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	6.2
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	6.6
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	6.2
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	7.0
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	6.8
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.2
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	6.2
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	6.2
合計		66.4

● 17：～和徳の歴史の探求と伝統ある津軽の歴史の魅力発信事業

～題「けの汁発祥の地 和徳城」和徳城主 小山内讃岐の守没後446年祭／和徳歴史探偵団

【質疑応答 (抜粋)】

Q：今回は記念誌を活用した学習会を実施するということだが、記念誌の監修はどのように行われるのか。

A：歴史の内容については、稲荷神社の宮司さんに講話をお願いしたりしている。記念誌の編集は団体内で行うが、歴史に詳しい今井二三夫さんに内容を確認していただいて、校正を行っている。

Q：けの汁コンテストの募集方法について、高校生と一般を対象にしているようだが、どのようにして周知を行うのか。

A：新聞等へ記事を掲載していただくほか、市内各所や市のHPにポスターを掲載していただく。また、高校生に限っては、学校にダイレクトメールを送っている。

【主な意見】

- ・地域の人たちが地域の子ども達に自分たちの歴史を伝えていくというところが、仕組みづくりとしてとても良いことだと感じた。
- ・歴史の部分だけを切り取らずに、まちの資源を探したりするなど、まちづくり全般に活動が広がればいいと思う。
- ・現在実施している活動が、場合によっては福祉や防災などに関連していく可能性もあり、このような核が地域の中に出ることは大事だと思う。

【採択結果】

合計点 70.0 点  $\geq$ 60.0 点

※審査委員 10 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	6.4
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.2
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	6.6
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.2
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.4
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	7.4
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	7.6
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.0
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	6.6
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	6.6
合計		70.0

● 2 2 : 乳井区域内放棄地の環境整備と美化活動/乳井町おこし協力会

【質疑応答 (抜粋)】

Q : 事業実施においては、その都度目標を決めて 1 回できちんと実施していただきたいと思うが、団体としてはどのように考えているのか。

A : 団体では、自分たちのできるところからコツコツと実施していくという方針で活動している。団体内で負担無く、みんなが満足して活動できる状態を継続していきたいと考えている。

Q : 講師を呼んで歴史講座を開催されるようだが、将来的に冊子の作成など、市民に広く知らせるようなお考えなどはあるか。

A : 現在、事業を進める上で地域のロードマップを作成しているほか、神社の改修も別に行っている。それらを全部踏まえた上で事業が継続できれば、冊子などにまとめていきたいと思う。

【主な意見】

- ・できる範囲内で事業を実施していく中で、メンバーの増加や町会内の意識の変化など、整備以外の効果が得られたようで、事業を継続することの良さを感じた。
- ・活動を通じて関係性が生まれ、メンバーの増加やホタルの話、防災への意識など、小道の整備からまちをトータルに考えるような活動に広がっており、素晴らしいと思った。

【採択結果】

合計点 77.4 点  $\geq$ 60.0 点 ⇒採択 (申請額どおり)

※審査委員 10 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.4
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	8.2
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.8
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.6
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	8.0
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.0
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	8.0
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.4
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.6
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.4
合計		77.4

● 14：大仏公園あじさいまつり／石川町会

【質疑応答 (抜粋)】

Q:俳句コンテストを実施しているということだが、庶民的な川柳の部を作ってはどうか。

A:季語がない川柳は、皆さんも気軽に参加できると思う。今からでも変更できるのであれば、俳句と川柳を半分ずつ取り入れたいと思う。

Q:祭りを始めてから、認知度や祭り期間以外の来場者にどのような変化が見られたか。

A:祭りのポスター掲示をお願いする時に少しずつお話をすることを心がけていたところ、皆さんが応援してくれるような状況になってきている。認知度も上がり、祭り期間以外の来場者も見られている。近隣の町会とも交流をしているので、将来的には、祭りに捉われることなく、近隣と連携しながら、何か地方から広げられるようになっていければと思っている。

【主な意見】

- ・本来は市の財産なので、市が直接管理すべきところを町会が整備等をしてくださっているということで、市が謝礼を差し上げなければいけないくらいの事業だと思う。
- ・祭り期間だけでなく、普段からも人が行きやすいような公園の整備を、ぜひ町民の皆さんで続けていただきたい。

【採択結果】

合計点 75.6 点  $\geq$  60.0 点 ⇒採択 (申請額どおり)

※審査委員 10 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.4
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	8.2
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.4
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	6.8
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.8
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.0
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	8.0
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.4
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.2
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.4
合計		75.6

● 11：弘前暮らしの保健室／弘前暮らしの保健室

【質疑応答（抜粋）】

Q：1,300枚分のチラシの予算が計上されているが、これはどのように活用するのか。

A：年間予定を記載したチラシを、前期と後期で分けて配布する。そのほか、介護ロボット体験や看護体験などのイベントを周知するために活用したいと考えている。

【主な意見】

- ・チラシが周知徹底のためのツールであれば、必ずしもカラーである必要はないと思うため、印刷の予算を見直すなどし、参加者のために使えるような予算を組んでみてはどうか。
- ・間違いなく素晴らしい活動であり、これをボランティアでやらなければいけない社会がおかしいと思うくらいである。
- ・この団体だけが中心になるのではなく、有志団体やNPO団体など、さまざまな団体が、自分たちのできる範囲で行っていくことが必要になっていくと思う。

【採択結果】

合計点 74.0 点  $\geq$  60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 10 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.0
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.8
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.8
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.4
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.0
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	7.8
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	7.6
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.0
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.0
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.6
合計		74.0

● 28 : リーディングライブ「卍の城物語」 / 弘前芸術鑑賞会

【質疑応答 (抜粋)】

Q : チケットの販売計画を教えてください。

A : 約200枚はプレイガイドでの販売を見込んでいる。その他については、弘前市民劇場の会員にお願いしながらチケット販売をお手伝いしていただきたいと考えている。万が一、計画通りに販売できなかった場合は、会からの持ち出しで対応する。

Q : 将来的に、歴史の学習として小中学校の児童生徒を対象に公演する計画はあるか。

A : いずれは小中学校での公演も考えている。教育委員会へは、今回の90分のドラマリーディングの台本を差し上げるので、学習発表会や歴史学習などにうまく活用していただければと思っている。その他、今回の状況を見て、弘前城での野外公演など、観光客向けの公演も考えていきたい。

【主な意見】

- ・市では、キャリア教育の一環としてひろさき卍学を進めているところもあるので、今回のテーマはベストだと思う。
- ・一般のチケットが3,000円ということだが、見込み通り人が来てくれるのかという部分が少し心配である。

【採択結果】

合計点 72.4 点  $\geq$  60.0 点 ⇒ 採択 (申請額どおり)

※審査委員 10 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.4
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.8
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	6.8
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	6.8
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.4
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	7.6
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	6.8
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.2
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.6
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.0
合 計		72.4

● 31 : HIROSAKI JAZZ STREET 2017／弘前駅前遊歩道賑わい祭実行委員会

【質疑応答 (抜粋)】

Q : 街並みが変わってきたという話だが、これはイベント開催時のことか。

A : イベント開催時以外の普段から変化がみられている。遊歩道周辺の店舗が1軒、2軒と花を植え始めたところ、写真を撮影してSNS等に掲載する人がでてきた。その影響もあり、店舗の営業をしていない日曜日でも、歩く人や犬を散歩する人が増えてきたように感じている。

Q : 少しずつ世代交代がなされているようだが、団体役員は今後、どのように関わっていくのか。

A : 事業を運営したい人が出てきたらこれまでのノウハウを教えて、バトンタッチしていきたいと考えている。自分たちで始めた事業なので、バトンタッチ後も協力は惜しまず、責任をもってサポートしていく。

【主な意見】

- ・市内各小中学校へもアプローチしたいということだったので、将来的にそれが叶って仙台の定禅寺でのイベントのようになればいいと思う。
- ・内容面も費用面でも、自助努力や意気込みが感じられる事業である。
- ・この活動が継続して積み重なることで、外から見ても目立つようになり、他の地区や団体に良い影響を与えるようになればいいと思う。

【採択結果】

合計点 76.4 点  $\geq$  60.0 点  $\Rightarrow$  採択（申請額どおり）

※審査委員 10 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.8
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	8.0
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.4
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.0
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.6
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	7.8
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	8.0
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.6
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.6
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.6
合計		76.4

3月18日審査結果（37事業のうち11事業）

採択とする事業 11事業

不採択とする事業 0事業

# 平成28年度第6回弘前市まちづくり1%システム審査委員会 会議録概要（3日目）

日 時：平成29年3月19日（日）

午前9時～午後3時35分

場 所：市民参画センター3階グループ活動室

出席者：審査委員 清藤委員長、土井委員、安田委員、鴻野委員、兼平委員、西川委員、  
花松委員、佐藤委員、川村委員（事業番号4まで）、齋藤（紀）委員、  
高森委員、木田委員  
市民協働政策課 清藤課長、堀川補佐、對馬係長、齋藤主査、阿保主事、神主事  
山田主事

## 1 公開プレゼンテーション・審査会 3月17日・18日に引き続き審査

《審査内容》

### ●6：小学校体育支援事業「運動大好きプロジェクト」

／特定非営利活動法人 スポネット弘前

#### 【質疑応答（抜粋）】

Q：事業内で運動会やマラソン大会などのスポーツ行事に参加する予定はあるか。

A：小学校からは、スキー教室に来てほしいという要望もあるが、事業内では難しいので、小学校と講師が直接やりとりしても良いのではないかと考えている。おそらく、放課後のクラブ活動に呼ばれるなど、いろいろなニーズがあると思うので、どの辺まで応えていけるか考えながらやっていきたい。

Q：体力測定などを行って、数値で成果を出して、次年度以降に生かすようなことも考えているか。

A：体力測定を行うことは難しいかもしれないが、授業を受けた子どもたちにアンケートを取る予定であり、例えば、事業の実施前と実施後では、子どもたちの体育に対する考え方がどのように変わるかなどを見ていきたい。

Q：地域の中にいるスポーツ指導者になり得る人達と、協力し合いながら体育の指導に当たることは考えているか。

A：専門性のある指導者とそれをサポートする人を整理して考えたい。地域の方はサポートする側になってもらい、そのような人を我々がコーディネートすることも必要だと思っている。

#### 【主な意見】

- ・中学校でも生徒が少ない学校だと、5教科以外の先生を確保することが難しいので、専門的な人をどんどん受け入れていければすごくいいと思う。
- ・今後、教育委員会と少しずつ連携して、団体が事業を受託するような道筋を見つけていただき、体育に限らず音楽など別の分野にも派生していくようなかたちを作っていただきたい。

【採択結果】

合計点 82.3 点 ≥ 60.0 点 ⇒ 採択(申請額どおり)

※審査委員 12 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	8.3
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	8.5
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	8.5
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	8.0
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	8.2
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.3
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	8.0
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	8.2
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.8
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	8.5
合計		82.3

● 7：過疎地域スポーツ推進事業「スポーツゲンキッズ教室」

／特定非営利活動法人 スポネット弘前

【質疑応答(抜粋)】

Q：経費面で団体の負担がかなり大きいですが、改善できる点はあるか。

A：送迎用の車のリース代が経費の大部分を占めているが、車を購入する経費と比べてもメンテナンスや車検のことを考えるとあまり変わらなかった。将来的には、地域の中でコミュニティバスができれば、子どもたちの送迎に使えるように調整したいとも考えている。

Q：市主体で同じような事業をすることになった場合、この事業が中断してしまうことが懸念されるが、団体ではどのように考えているか。

A：団体としてゲンキッズ事業をずっと続けていこうと考えているわけではない。最終的に市で事業化されたら、例えば低学年の子どもたちがゲンキッズのような場に参加してもらい、高学年になったら市の事業に参加できるように橋渡しをすることができればいいと思う。

【主な意見】

- ・様々な背景から、今まで小学校が中心になってやってきたことも、なかなかできなくなりつつある中、行政と民間がつながって、これまでやってきたことを保たなければならないと思う。
- ・学校やNPOなど、地域のいろんな人たちが、それぞれの能力を出し合っている企画なので、行政もそれらを受け入れて、新しい仕組みを作っていただきたい。
- ・子どもたちを育てるという視点からも、応援したい。

【採択結果】

合計点 83.8 点  $\geq$  60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 12 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	8.0
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	8.8
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	8.8
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	8.3
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	8.7
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.2
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	8.0
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	8.0
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	8.5
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	8.5
合計		83.8

● 16 : いわなのつかみ取り体験／特定非営利活動法人 藤代地域ふれあいの会

【質疑応答 (抜粋)】

Q : 藤代地区町会連合会や各町会から協賛金等の補助をもらうことは考えているか。

A : 地区内には地区町会連合会、地区社協、地区体協、青少年育成委員会などさまざまな団体があるが、それぞれの団体が目的をもって活動をしているため、この事業について補助をお願いするようなことはしていない。地域内の事業所等に協賛をお願いする予定である。

Q : 次世代につなげるための工夫について教えていただきたい。

A : 以前、町会で子どもたちが主体となつての夜店祭りを行ったことがあり、その世代が子どもを持つような世代になってきたことで、子どもたちのためにできることは何かを話し合えるようになってきている。いわなのつかみどり体験についても同じように、参加し

た子どもが将来主催者側になると期待している。

Q：藤代地区は、近くに岩木川が流れているが、生け簀を使うのではなく川を使った体験を行うことは可能か。

A：いわなのつかみどり体験を行う頃は、水温が高くなっており、いわなが弱ってしまうことから、以前、川をせき止めての体験は難しいと判断した経緯がある。

【主な意見】

- ・主体はNPO法人だが、地域の子どもたちのための事業なので、地区町会連合会や各町会に事業の趣旨に賛同してもらえるよう話し合い、協力してもらいながら事業を展開していただきたい。
- ・藤代地区という広範囲で事業を進めていくのは難しいことだが、子どもから高齢者までの地域住民にとって、大変いい事業だと思う。

【採択結果】

合計点 61.8 点  $\geq$ 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 12 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	6.3
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.3
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	6.3
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	6.2
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	6.0
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	6.8
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	6.2
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	5.7
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	5.8
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	5.2
合計		61.8

● 19：ヘルシーエイジング／ヘルシーエイジング

【質疑応答（抜粋）】

Q：後継者育成に関して、ミニ講座や体操の講師になってみたいと思っているような人材について、どのように対応していく予定か教えていただきたい。

A：受講者の中にも、それぞれ特技を持った人もいますので、受講者の中から特技にあった講座などを随時提供してもらうことができれば、さらに充実感を持って参加してもらえないかと思う。体操の講師については、市で健康増進リーダーを育成しており、リ

一ダーになった人たちの経験のためにもぜひ一緒に活動したいので、門戸は開いているつもりである。

Q：団体負担を少しでも減らすためにも、将来的に参加者の負担を増やしていくことは考えられるか。

A：1期の金額を上げるということは今後の課題だと思う。少し時間をかけながら団体内で話し合っていきたい。

Q：受講者は、1クール3か月の参加となるので、受講期間が終わった後、次に参加できそうな場所をコーディネートしてあげるようなことは予定しているか。

A：これまで各期新規で申し込む人でいっぱいになっており、このあとも続けて参加したいという声が非常に多いので、その方々をどのようにつないでいけばいいか現在考えているところである。

### 【主な意見】

- ・団体からの持ち出しが多いと、事業を長く続けることが難しくなるので、事業にかかる経費をしっかりと事業費として計上して、長続きできるようにしていただきたい。
- ・体操だけではなく、ミニ講座を工夫しながら行っていることも非常に素晴らしいと思う。

### 【採択結果】

合計点 78.2 点  $\geq$  60.0 点  $\Rightarrow$  採択（申請額どおり）

※審査委員 11 名で審査採点（齋藤（紀）委員は審査から外れる）

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	8.0
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	8.0
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	8.0
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.6
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.6
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	7.6
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性（継続事業については発展性）が期待できる	7.8
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	8.0
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.6
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.8
合計		78.2

- 4：津軽カタリスト 太宰治ドラマリーディング定期公演 事業／津軽カタリスト  
【質疑応答（抜粋）】

Q：補助金の要望が平成30年までとなっているが、それ以降どのように事業を継続していこうと考えているか教えていただきたい。

A：今回の予算には、音響機材を賃借料で計上しているが、次年度以降、中古機材を安く譲ってもらえるように交渉しているところである。また、現在はチラシを印刷業者に依頼して作成しているが、補助申請する前の手作りに戻すことで経費を削減できると考えている。

Q：定期公演の来場者は、市内外のどちらからの人が多いのか。また、来場している人は固定されているか、わかる範囲で教えていただきたい。

A：チラシを市外にも配っていることから、市外からの来場者もいる。また、天候や他のイベントとの関係もあるのか、来場者は固定しているわけではない。1%システムを活用する前は、来場者が20～30人だったので、チラシの効果もあり来場者が2～3倍になっている。

#### 【主な意見】

- ・参加費等の収入を含め、今後補助金が使えなくなっても、事業を継続していく方法について考えていただきたい。
- ・今後チラシの予算削減を視野に入れているのであれば、来場者がどうやって公演を知ったか聞いてみたり、来場者のメールアドレスを聞いて公演前に発信するなど、いろんな人が来場するように工夫していただきたい。
- ・会場にこだわりがあることは理解するが、収容人数を考えると、何年か続けていくうちに来場者が固定化する可能性もあるので、定期公演とは別に、学校や広い会場で公演を行うといったことも考えていただきたい。

#### 【採択結果】

合計点 67.0 点 ≥ 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 12 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	6.8
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.0
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	6.3
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	6.2
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.2
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	7.2
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	6.5
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	6.7
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	6.3
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	6.8
合 計		67.0

● 10 : 弘前さくらコンサート Vol. 3/Rainbow Muse Hirosaki

【質疑応答 (抜粋)】

Q : 今年度の観覧者を600人と見込んでいるが、観覧者がそれに届かずチケット収入が得られなかった場合は、どのように対応するのか教えていただきたい。

A : 今年は、ジャズをコンサートの中に取り入れ、クラシックだけでなくジャズが好きな人に来てもらえることや、一流のピアニストのピアノを聞いてもらえること、それを踏まえて会員が手売りを積極的に行うことで、観覧者数を600人と見込んでいる。また、活動に対するサポーターが増えてきており、昨年同様の協賛金が見込めると考えている。

Q : コンサートの中に、「100台鍵盤ハーモニカ」という企画があるが、参加状況と今後の見通しについて教えていただきたい。

A : 小学生だけでなく大人を含めて現在48人参加しているが、これから徐々に増やしていくために、地道に声掛けをしていきたい。また、学校を巻き込んでいきたいとも考えており、放課後に音楽活動をするような学校が増えてほしいという思いもあるし、一般の人にも楽しんでもらえる楽器なので、鍵盤ハーモニカの企画をしばらく続けていきたい。

【主な意見】

- ・子どもが使った鍵盤ハーモニカやリコーダーを捨てずにいる家庭はあると思うので、音楽を習っていない子どもたちや一般の人でも参加できる鍵盤ハーモニカの企画を取り入れたことで、新たな広がりを感じられた。
- ・たくさんの人に見に来てもらうという努力を継続しながらも、現状の収入と照らし合わせて、固定でかかる経費を少しずつでも抑えるなど、支出を精査していただきたい。

【採択結果】

合計点 63.0 点  $\geq$  60.0 点  $\Rightarrow$  採択（申請額どおり）

※審査委員 10 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	6.8
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	6.6
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	6.2
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	6.0
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	6.4
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	6.8
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	6.2
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	6.4
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	5.6
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	6.0
合 計		63.0

● 24 : 「第3回 日本・台湾友好音楽祭」 / 弘前市民俗芸能保存連合会

【質疑応答 (抜粋)】

Q : 入場料を有料化したり、飲食物を販売するなどの収入を得ることについて、将来の展開として考えているようだが、今回から入場料を有料化することは考えているか。

A : 1年おきに行っていることもあり、まだ事業の知名度が高いとは言えないので、もう少し時間をかけて検討していきたいと思っている。

Q : 来場者が台湾のことを知るためには、間に立って通訳するような人が必要だと思うが、台湾からの留学生を会場に配置するなどの工夫があれば教えていただきたい。

A : 留学生の手配を協会等をお願いしているところである。台湾の人は親日家が多いので、弘前を好きになってもらうきっかけにもなると思う。

Q : 前回の実績よりも、来場者が15%ほど増える見込みだが、入場者が増えるためにどのような工夫をするのか教えていただきたい。

A : 会場をヒロロ3階のイベントスペースを中心に考えており、一般の人の出入りが多いため、参加者が増えると見込んでいる。また、開催日をねふたの駅前運行の日にしたので、しっかり事前に宣伝して、事業を知っていただくことで、観光客や市民の人に楽しんでもらえる場にしたい。

【主な意見】

- ・来場者が一方的に外から音楽を聴くという形にならないように、来場者が台湾のことを知り、輪の中に加わるような工夫をしていただきたい。

- ・将来的には、例えば台湾の料理を食べられる券付きの入場チケットを売るなど、収入を得られるような方法を考えながら活動していただきたい。
- ・これまで活動してきた様子や成果を、映像や写真にして展示することで、会場に来た人たちに情報を共有してもらおうなど、活動を広げていただきたい。

【採択結果】

合計点 70.4 点 ≥ 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 10 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.2
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	6.8
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	6.8
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	6.8
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.2
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	7.2
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	7.0
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.0
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.4
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.0
合 計		70.4

● 21：弘前落語教室（落語学習推進事業）／弘前落語振興グループ

【質疑応答（抜粋）】

Q：講座を実施して、参加した人が身に着けたコミュニケーション能力が、どのように弘前のためになっていくと考えているか教えていただきたい。

A：例えば、弘前のまちや歴史に詳しい人はたくさんいると思うが、ボランティアガイドの人に、弘前を知らない人に弘前を知ってもらうためのプレゼンテーション技術を学んでもらいたいと思っている。また、現在活発に活動できていない団体の中にコミュニケーション技術を持った人が入れば、話し合いが持たれたときに、議論が活発になり、動きがでるのではないかと考えており、そのような団体が増えることを期待している。

Q：若い世代にも参加してもらいたいとのことだが、若者に参加してもらえる見込みはあるか。

A：落語を使った内容になるので年配の人向けなのかとも思っていたが、若い人と話したときに、スマホでライブ映像や小説などの創作物を見ることができることもあって、生のコミュニケーションに魅力を感じる人が多いと聞いた。そのため、生の舞台上で受け継がれ

てきた落語に興味を持ってくれるのではないかと思っている。

Q：落語教室を4回開催したあとの成果の見せ方など、次の展開について教えていただきたい。

A：落語を通じてコミュニケーション術を学びたいという共通点はあるが、例えば音楽が好きだったり、演劇が好きだったり、さまざまな人が集まってくると思う。そのことを踏まえて、会の中でも話し合っってノウハウを蓄積し、次の展開を考えていきたいと思う。

### 【主な意見】

- ・落語を通じて、話術や場を和ませる能力等を身に付け様々な場面で活用してもらいたいという思いには賛同しますが、講座内容を具体的に示して対象者を募るなど、効果や今後の展開をより意識した実施方法を検討していただきたい。
- ・コミュニケーションを図るための話術や、場を上手く和ませる能力によって、地域の中にたくさんある小さな団体の基盤づくりの一助になり得ると思うので、団体の中心メンバーなどを対象にするような内容も考えられるのではないかと思う。
- ・ただ「落語教室」として発信するのではなく、「落語を通じてコミュニケーションを学んでみませんか」というように、受け取る側にも伝わりやすい見せ方をして、内容もある程度具体的に決めて、この事業が必要な人に情報が届くようにしていただきたい。

### 【採択結果】

合計点 58.8 点 < 60.0 点 ⇒ 不採択

※審査委員 10 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	6.0
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	5.8
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	6.0
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	5.8
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	5.4
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	5.8
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	6.4
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	6.0
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	6.2
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	5.4
合計		58.8

● 8 : ふるさと交流ジャズコンサート in 弘前

／ふるさと交流ジャズコンサート in 弘前実行委員会

【質疑応答（抜粋）】

Q：このジャズコンサートを開催することで、弘前にどのような効果があると考えているか教えていただきたい。

A：ジャズが持っている前向きな音楽性が、まちを元気にし、何か企画などを立ち上げてみんなで頑張っていこうというときに、非常に有力な武器となる文化だと思っている。ジャズ人口が増えてきているが、演奏をする側・受け入れる側が消極的になってしまっは、せっかく活性していく可能性を逃してしまうので、この事業を進めて、動きを活発化させていきたいと思っている。

Q：希望日に会場を確保できない場合はどうするのか。

A：土日に確保できない場合は平日開催になる可能性がある。それが難しい場合、別の会場で形を変えて実施する。

【主な意見】

・地元のジャズ奏者のレベルを向上させることや、広く市民にジャズを聴いてもらう機会を創出するという事業の目的は理解しますが、コンサート開催によって得られる効果に疑問が残る。

【採択結果】

合計点 41.4 点 < 60.0 点 ⇒ 不採択

※審査委員 10 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	4.6
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	4.2
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	4.2
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	4.0
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	4.0
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	4.2
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	4.0
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	4.2
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	4.0
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	4.0
合計		41.4

3月19日審査結果（37事業のうち9事業）

採択とする事業	7事業
不採択とする事業	2事業

# 平成28年度第6回弘前市まちづくり1%システム審査委員会 会議録概要（4日目）

日 時：平成29年3月20日（月・祝）

午前9時～午後4時

場 所：市民参画センター3階グループ活動室

出席者：審査委員 清藤委員長、鴻野委員、兼平委員、西川委員、花松委員、佐藤委員、  
齋藤（紀）委員、前田委員（事業番号32から）、高森委員、木田委員  
市民協働政策課 清藤課長、堀川補佐、對馬係長、齋藤主査、阿保主事、神主事  
山田主事

## 1 公開プレゼンテーション・審査会

3月17日・18日・19日に引き続き審査

### 《審査内容》

#### ●13：イキイキ健康クラブスマイル／イキイキ健康クラブスマイル

##### 【質疑応答（抜粋）】

Q：参加者は主に女性か、または男性の参加もあるか。

A：毎週行っている運動会の参加者はほとんどが女性だが、不定期に行っているイベントには男性も参加している。普段は、ストレッチや柔軟体操を行っているので、楽しんでできると思うが、参加者のご主人を誘ってみても、音楽に合わせて動くことに抵抗がある人が多いようだった。

Q：来年度以降、補助金を使わずに事業を実施していく予定になっているが、どのように運営していこうと考えているのか。

A：毎週行う運動・茶話会については、会場の広さなどを考慮すると参加者をこれ以上増やすことは難しいが、大きなイベントを行わない限り運営できる見通しが立っている。今後特別なイベントを開催する際は自己負担で行おうと考えており、何年か続けていく中で、違う方向性が出てくれば、新しい企画に挑戦していきたいと思う。

##### 【主な意見】

- ・高齢者を対象に、同じような活動をしている団体があるので、年に1回でも合同で開催するなど、団体同士のつながりを持っていただきたい。
- ・参加者同士が交流して仲良くやっていくことも大変良いことだが、男性が参加するための工夫について、同じような活動をしている団体と共に考えていっていただきたい。
- ・あまり多くの人が参加しても、参加者同士がコミュニケーションを取れなくなるので、身の丈にあった人数で、1%システムに申請せずに来年度以降続けていくというのであれば、それでいいと思う。

【採択結果】

合計点 76.7 点 $\geq$ 60.0 点 ⇒採択(申請額どおり)

※審査委員 9 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.3
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.3
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.8
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.3
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	8.0
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.0
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	7.8
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	6.9
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.8
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	8.4
合 計		76.7

● 27：弘前市民の森で元気になろう／弘前市民の森の会

【質疑応答（抜粋）】

Q：今後、登校拒否の子どもたちの受け皿になるようなことも考えられているが、現在は子どもの参加はあるか。

A：母親が子どもを連れてくることがある。別の活動で、教室拒否の子どもたちの為に押し花や抹茶体験をしたことがあったので、市民の森でも登校拒否の子どもと家族が参加できるようにしたいと思うようになった。子どもたちにも色々な状況があるので、普段の活動日以外にも希望があれば対応したい。

Q：これまで事業を実施してきて、参加者は固定している人が多いのか、それとも新たな人が入れ代わり立ち代わり参加するような状況なのか。

A：一概には言えない。初期から参加されている人で、今もつながりがある人は3割ほどだが、1年だけ続けてくる人もいれば、2～3年続けてくる人もいる。参加した人が心身ともにプラスになって参加しなくなったのであれば、それはそれで良いことだと捉えている。また、参加しても、自分に合わないプログラムがある場合、その時間は自由にしてもらうなど、参加者に合わせるようにしている。

Q：市民の森での活動に参加したことによる効果を、どのように評価するのか教えていただきたい。

A：森林散策や景色を見ての癒し効果について、参加者に書いてもらった評価スケールを

専門家に分析してもらい、続けて参加したことによる気持ちの変化や体の変化などを、一人ひとり出したいと考えている。効果を可視化して多くの人に伝えることで、市民の森をもっと活用していただきたい。

#### 【主な意見】

- ・自然の中で、参加者同士が話をしながら心身の健康を目指していくという形の事業なので、心身の健康を取り戻した人が来なくなり、参加者が減ったとしても、それはそれで良いことだと思う。
- ・癒しを必要とする人たちが集まれる雰囲気づくりをよく頑張っていると思う。
- ・高齢化が進んでいる現代では、自然を利用した健康法が効果的だと思うので、継続して事業を実施していただきたい。

#### 【採択結果】

合計点 69.6 点  $\geq$  60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 9 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	6.9
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	6.9
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.3
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	6.7
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.3
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	7.1
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	6.4
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	6.4
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	6.9
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.6
合計		69.6

#### ● 3 : おかえり野菜 in 弘前プロジェクト事業／特定非営利活動法人 もったいないつがるの会 【質疑応答 (抜粋)】

Q : 生ごみたい肥化の事業にモニター参加して、出来上がったたい肥は個人で活用するのか。

A : 基本的には実際に使っていただきたい。家庭菜園などをしておらず、使わないという人のために、たい肥を買い取るような組織を作り、無駄にならないようにしたいと考えている。

Q : 啓発活動を行う場所が限定されているが、より多くの市民に事業を知ってもらうため

に、もっといろんな場所で実施することは考えられないか。

A：スーパーなど、多くの人を訪れる場所で行いたいと思い、問い合わせたことがあるが、テントやテーブル・椅子など団体に準備を要するもの多く、開催するのが難しい状態である。多くの人に活動を広げたいという思いはずっと持っているので、今回はフォーラムをヒロロの公共スペースで開催して、より多くの人に循環型社会について知ってもらいたい。

### 【主な意見】

- ・一人でも多くの市民に生ごみ減量に取り組んでもらいたいという事業の目的は理解しますが、モニター参加者が見込めるのかどうか疑問が残るため、より多くの市民が参加できるように、周知方法や啓発活動を行う場所などを工夫していただきたい。
- ・生ごみ堆肥化を500円のモニター料で体験してもらい、少しでも生ごみを減らすことに取り組んでくれる人が増えれば、それはとても良いことだと思う。
- ・半年参加した後、自分でも続けていきたいと思ったときに、モニター参加時に使ったものがいつまで使えるか、何を買い足さなければならないのかといった情報について、もう少し詳しい説明があればよいと思う。

### 【採択結果】

合計点 57.8 点 < 60.0 点 ⇒ 不採択

※審査委員9名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	6.2
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	6.7
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	6.9
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	5.6
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	5.1
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	5.3
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	5.3
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	5.8
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	5.1
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	5.8
合計		57.8

### ● 15：中心6商店街 接客英会話 無料セミナー・観光 ボランティア 事業

／弘前市英会話サークル Globish

### 【質疑応答 (抜粋)】

Q：外国人観光客に道案内をするにも、何を聞かれているのかを理解するにはリスニング力が必要だと思われるが、対応する際に工夫をしていることはあるか。

A：必ず日本語ができる外国人とペアを組んでもらったり、英語ができる日本人と初心者で組んでもらったりするなど、極力参加者の負担が少ないような形で、最大限の効果が出るように行っている。

Q：2回目の申請で、活動をしていくといろんなレベルが上がると思うが、当初目指していた方向に順調に向かうことができているか。

A：人が人を連れてくる、英語を話せる人が英語を話せる人を連れてくるということがあり、おもてなしセミナーにはのべ120人、ボランティアにはのべ50人、接客セミナーにはのべ82人の参加があっただけでなく、自分たちだけでは思いつかなかったところに考えを導いてくれる人も現れ、人が集まった時の相乗効果を感じた。

**【主な意見】**

- ・熱心に活動している若い団体が、観光客に積極的におもてなしすることはとても良いと思う。
- ・中国や韓国からの観光客も増えており、中国語や韓国語も実施できることが理想とのことなので、これから、活動を広げていくことにも期待したい。

**【採択結果】**

合計点 77.3 点 ≥ 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員9名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.1
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.8
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	8.0
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.6
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.3
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	7.8
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	7.8
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.8
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	8.2
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	8.0
合 計		77.3

●9：小沢ほたる鑑賞会／小沢小学校父母と教師の会

**【質疑応答（抜粋）】**

Q：PTAでの申請だが、来年以降も継続していくために、子どもたちの健全育成を担っている町会に対して、働きかけていく予定はあるか。

A： これまでも、公民館の運営委員会や町会の会合などに顔を出している。青少年育成委員会は町会の下部組織なので、育成委員の人とも連携しながら町会に働きかけていきたい。また、PTAだけでは事業の継続が難しいと思うので、「ほたる池保存会」のような会を立ち上げ、小学校や町会、公民会など地域の関係組織を巻き込んでいきたい。

Q： ほたる池になった場所はどのような環境か。

A： ほたる池の堤の下は全部遊休農地で、柳のジャングル状態だったが、そこにビオトープということで田んぼの畦畔を敢えて作り、ほたるを放した。整備してから見た目も良くなり、非常にやりがいがあると感じている。

### 【主な意見】

- ・環境パートナーシップ21の方にも相談しながら、近くにあるだんぶり池と一緒に活動を広げて行っていただきたい。

### 【採択結果】

合計点 79.8 点  $\geq$  60.0 点  $\Rightarrow$  採択 (申請額どおり)

※審査委員9名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.8
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	8.2
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.8
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.8
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.8
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	7.8
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	8.2
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.8
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	8.0
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	8.7
合 計		79.8

### ● 32：岩木山 YOGA FESTIVAL／岩木山 YOGA 実行委員会

#### 【質疑応答 (抜粋)】

Q： 2回目の申請だが、今回事業の中で広げていきたいところはどのような点か教えていただきたい。

A： 昨年実施した際、参加者の休憩時間がないくらいスケジュールを組んでしまい、参加者が続けてレッスンを受けづらい状態だったため、今回はインターバルを設けて、続け

てレッスンに参加できるように改善したい。また、会場が広いため、スタッフ同士の連携を密にすることによって、より参加者に楽しんでもらえるようにしたい。

Q：講師の選定理由を教えてください。

A：昨年もお招きした講師だが、昨年の事業実施後、ニュース番組の「男ヨガ」特集で取り上げられ、注目を浴びている。現在非常に人気があるが、弘前にまた招くことで弘前をPRすることにも繋がると考えている。

#### 【主な意見】

- ・前年度の課題を改善したり、継続するために必要なことが様々あると思うが、他団体とつながりを持ち、成果が伝わることでどんどん波及していく可能性がある事業だと思う。
- ・出店料を徴収し収入を得るなど、今後継続していくために、様々なことにチャレンジしていただきたい。
- ・岩木山でヨガをするということがとても良いと思う。

#### 【採択結果】

合計点 68.8 点  $\geq$  60.0 点  $\Rightarrow$  採択（申請額どおり）

※審査委員 10 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.0
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	6.6
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	6.8
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	6.4
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.2
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	7.4
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	7.0
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.0
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	6.6
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	6.8
合計		68.8

#### ● 34：おしごと体験広場キッズハローワーク

／おしごと体験広場キッズハローワーク実行委員会

#### 【質疑応答（抜粋）】

Q：子どもたちが職業体験をしている間、同伴しているご家族の方はどのように見ているのか。

A：子どもたちはきっと、家族に自分のいいところを見てもらいたいだろうし、家族も子

どもたちが体験している様子を撮影したいだろうと思うので、口や手を出さずに、子どもたちが体験している様子が見られる距離にいてもらっている。

Q: 昨年の参加者数よりも、今年の参加予定者数を下げている理由を教えてください。

A: キャパシティをどれくらいに設定するか非常に悩ましいが、一人ひとりに良い体験をしてもらえる数ということで、子ども500人と付いてくる家族2人で1,500人と設定した。

Q: 昨年の体験してもらった業種が非常に多く感じるが、今年の業種の選定方法について教えてください。

A: 子どもたちが将来就く職業の選択肢を増やすことが目的ではなく、キッズハローワークに参加することで、たくさんの世代の人とふれあって、自分の住んでいる地域は、こんなふうに安全に過ごせる場所があるということを楽しく伝えたいと思っている。職業を体験させる側もすべて本職の方をお願いしており、自分の仕事と大変なところについて、子どもたちに必ずお話ししてもらえようをお願いしている。

#### 【主な意見】

- ・ 昨年の事業を見に行った時に、赤ちゃんを連れているお母さんのための授乳場所を用意しているのを見かけ、参加者に配慮されていると感じた。
- ・ 色々な仕事を体験したり、体験ができなくてもブースを見て回ることで、子どもたちが将来就く仕事の選択肢が増えるきっかけになるので良いと思う。
- ・ 子どもたちに自分たちの職業を紹介する経験が、体験させる企業にとっても良いことだと思うので、企業側からこの事業に参加して宣伝したいと思ってもらえるような事業に発展させていきたい。

#### 【採択結果】

合計点 76.4 点  $\geq$  60.0 点 ⇒ 採択 (申請額どおり)

※ 審査委員 10 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.8
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.4
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.4
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.6
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	8.0
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.0
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	7.6
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.6
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.4
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.6
合計		76.4

● 35：りんごのある暮らしと仕事／おしごと体験広場キッズハローワーク実行委員会  
【質疑応答（抜粋）】

Q：子どもたちに弘前がりんごのまちであることを伝えるためには、りんご産業を支えてきた職人だけでなく、実際にりんごを作っている人のことを知ってもらいたいが、りんご農家の仕事をどのように伝えていくか教えていただきたい。

A：体験ブースの中には、職人ブースだけでなく、りんご農家ブースを設ける。イベント当日は、りんごの花が咲いている時期なので、花を摘んでもらったり、交配してもらったりする予定である。

Q：児童に下敷きを配付して終わらないようにするために、学校との連携など、考えていることがあれば教えていただきたい。

A：小学校の社会見学などに活用できるような情報を下敷きに入れたいと思っている。個々の職人が対応できないこともあるかもしれないので、学校からの問い合わせを職人につなぐ調整役になればと考えている。

Q：下敷きを使わない子どもが増えているので、子どもたちが使ってくれそうなものに変えるとより効果が高まるのではないかと感じたが、団体の考えを教えていただきたい。

A：弘前はりんごで有名だが、りんごを作る農家を支える産業や、そこからつながっていく仕事が多々あることを子どもたちに知ってもらいたい。クリアファイルにすることも検討し、経費的に安く済むことがわかったが、強度があまりよくないことと、最近はクリアファイルが配付されることが多く、下敷きのほうが見てくれる可能性が高くなると期待を込めて企画した。

【主な意見】

- ・県内の小学生がりんごの下敷きをもらうため、さまざまなりんごの種類を知っているということが県外でも話題になっていることから、それを下支えするりんごに関わる産業の方々をPRする良いきっかけになると思う。
- ・弘前の子どもたちに、りんごとそれを支えてきた産業とのつながりといった社会を伝える必要性は十分理解しますが、りんごができるまでの工程を学習した後の学年に下敷きを配付したり、りんご栽培に関わる体験を増やすなど、子どもたちがより興味を持つ方法を検討していただきたい。
- ・農家が忙しい時期で大変だとは思いますが、体験イベントをりんごの花の時期ではなく、りんごの収穫時期にすることによって、一日にできることが増え、より効果的なのではないかと感じた。

### 【採択結果】

合計点 52.6 点 <60.0 点 ⇒不採択

※審査委員 10 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	5.4
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	5.6
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	5.8
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	5.0
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	5.2
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	5.2
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	5.2
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	5.2
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	4.8
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	5.2
合計		52.6

### ● 26：りんご畑を会場にした多目的クラブイベント／Primavista org.

#### 【質疑応答（抜粋）】

Q：イベントを2回行う予定となっているが、1つのイベントを有料で行うのに対して、もう1つを無料にする理由を教えてください。

A：1回目のイベントを比較的市街地から近いりんご公園で、無料で開催することで、幅広い客層に足を運んでもらいやすく、多くの人に事業の趣旨を知ってもらうことができると考えている。そこで興味を持った方は、2回目の、より本質に迫ったイベントに有料で参加していただきたい。これまで限られた層が楽しんでいたスタイルだったものを、より間口を広げていきたいと思う。

Q：今回申請した事業内容は、1%システムの趣旨に、どのように合致するとお考えか教えていただきたい。

A：Uターン・Iターンで弘前に来た人たちの話から、弘前の魅力や可能性は、市街地から離れたところにもあるということがわかった。このりんご畑で音楽を楽しむイベントを5年10年と続けて定着できれば、県外にもアピールでき、県外からの参加者が増えると経済効果もあると考えている。

Q：イベントを続けていく上での今後の展開を、どのようにイメージしているか教えていただきたい。

A：今回想定している会場でも、収容人数に余裕はあるが、これから2年・3年と続けていって、1,000人規模の大きなイベントになったときに、地域性を加味したイベント名にすることや、会場を選定し直すことも念頭に置いている。

### 【主な意見】

- ・有名なDJを呼んでくることによって、今まで地域に対して興味を持っていなかった層に対して、地域の良さを伝えることができる可能性があると思う。
- ・本事業が、弘前の原風景の魅力発信につながり、将来的にも県内外からの誘客の一翼を担う可能性があることは十分理解できますが、第1回イベントの会場選定を含め、より効果的な事業の実施方法を検討していただきたい。

### 【採択結果】

合計点 49.2 点 < 60.0 点 ⇒ 不採択

※審査委員 10 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	5.0
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	4.8
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	4.8
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	4.6
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	5.0
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	5.4
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	5.0
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	5.2
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	5.0
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	4.4
合 計		49.2

● 23 : 第1回公演 ミュージカル「THE SOUND OF MUSIC」

／弘前こども・おとなミュージカルクラブ

【質疑応答（抜粋）】

Q : 今回の企画と前回の企画の違いを教えてください。

A : 今年の12月公演では、全曲演奏をする予定であり、芝居や振り付けも加えて、よりミュージカル公演という形を強くすることを目指している。

Q : 実際に参加する児童は、どのくらいになる予定か。

A : 今年は現時点で4人の生徒が参加する予定になっているほか、小学校の合唱部にも協力を仰いで、より子どもたちのためのミュージカルを作りあげたい。子どもたちのほかに、高齢者の人や、仕事が終わってから参加する社会人の方にも参加してもらいたいと考えている。

【主な意見】

- ・子どもたちの情操教育のために良い事業だと思う。
- ・ミュージカルを演じる側の子どもたちの層がもっと厚くなるように、参加者が集まるような公募方法を工夫していただきたい。
- ・今までは、男の子の参加が少ないようなので、男の子が参加できるような工夫をしていただきたい。

【採択結果】

合計点 67.2 点 ≥ 60.0 点 ⇒採択

※審査委員 10 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	6.8
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	6.6
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	6.2
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	6.4
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	6.8
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	6.8
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	7.0
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	6.8
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.0
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	6.8
合 計		67.2

3月20日審査結果（37事業のうち10事業）

採択とする事業	7事業
不採択とする事業	3事業

1次募集事業の審査結果（37事業）3月17日～20日審査合計

採択とする事業	31事業
不採択とする事業	6事業